

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072500475		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム スマイルライフ		
所在地	福岡県大川市向島1051-2 (電話) 0944-88-2828		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 11 日	評価結果確定日	平成 26 年 1 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の残存能力に合った家事や学習に参加して頂き、家庭的な生活環境を保ちながら、「その人らしさ」を大切に、認知症の進行防止に努めています。母体が病院である為、夜間急変があっても医師からの指示がもらえ急変時の対応ができ、健康保持の為の連携がとれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 25 年 11 月 25 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体の病院から程近い住宅街にある事業所は、モスグリーンの屋根が目立つ平屋建てで、明るくゆとりある造りである。管理者・職員は理念の実践に向けて日々努力しており、家庭的な生活環境の中で、編み物の作品・家事や園芸等、利用者各々が持つ残存能力を活かし、安らぎの毎日が送れるよう支援している。母体病院との連携で健康管理は徹底され、利用者・家族の安心と信頼につながっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との交流を持ちながら」を掲げ週1回の朝礼や全体会議で復唱し、スタッフ全員で共有し理念の実現に努めている。	オープン時に全職員で「住み慣れた地域で交流を持ちながら」と、地域密着型の視点で独自に作り上げた理念がある。週1の合同朝礼やミーティング時、話し合いの機会を持ち、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長さんや寿会（老人会）と連絡を取り合い地域の行事に参加し馴染みの関係を築いている。又敷地内に不燃ごみ捨て場を提供し、地域の方と交流できている。	公民館で月1催される「ゆうゆう会」に参加している。地域の文化祭には作品を出展し、事業所で立ち上げた地域交流会では、食事会・フラダンス・手品・認知症対応の介護寸劇等で多くの参加を得ている。近隣高校生の実習を受け入れている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会を開催し、その中で認知症介護に関する介護劇を行い、認知症の方への接し方を理解してもらえるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容を報告し、質問や意見をもらい改善点があれば全体会議の議題に掲げ話し合い、全スタッフでサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。委員から災害・防災についてや、財政で節約できるところの取り組み等、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に参加依頼し困難事例等相談している。又、市内グループホーム連絡協議会で各事業所より、検討課題を持ち寄り意見交換会を行っている。	行政には月始めの更新申請のほか、日常的にも窓口・電話・メールで困難事例を相談したり、市内GH連絡協議会等で積極的に意見交換するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修に参加し、ホーム内で勉強会を定期的に行い身体拘束をしない方針で取り組んでいる。	日中居室・玄関の施錠はしていない。身体拘束に関するマニュアルがあり、「身体拘束をしないケア」を実施している。定期的に勉強会をしている。一部職員が身体拘束に関する外部研修を受講し、全職員に伝達研修をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待防止についての外部研修に参加し、全体会議で研修報告を行い意見交換をし防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回権利擁護成年後見制度についての外部研修に参加し、全体会議で研修報告を行い意見交換をしている。入居時、家族に制度について説明している。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族等に、利用開始時に説明している。職員は、情報提供を行い内部・外部研修で学ぶ機会があり、研修記録もある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は、入居前に自宅で十分目を通してもらい、入居当日説明し納得してもらって捺印してもらっている。又、改定があれば、家族会で提案し説明を行い納得してもらい変更している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で意見や要望を聞いている。又、家族面会時、生活の様子を伝え何か気になる事があれば、話を聴き改善すべき点があれば、全体会議で議題にし、運営に反映するよう努めている。2~3か月に1回民生委員と入居者様との懇談の機会を持っている。	敬老会の食事の前に家族会を開催し、利用者・家族からの意見や思いを聴ける交流の場になっている。そこで行われる職員による「認知症対応の介護劇」の寸劇が好評になっている。また職員は、日々の生活や家族等の来訪時に要望・意見等聴くよう声かけに努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度より、月1回業務改善会議を行い職員からの意見、要望を業務に反映している。	全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。月1回、各ユニット会議・全体会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は職員の気付きやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回行動評価表による自己評価を行い研修参加や資格取得を奨励している。又、年1回等級の見直しがあり、努力している職員は昇給できるシステムがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女、年齢区別なく採用している。現在65歳以上1名勤務され得意な畑作りを担当し、季節の新鮮な野菜を食材に使っての食事提供できている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。事業所で働く職員についても、研修・資格取得を推進し、自己実現のために配慮している。昇給システムを取り入れている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回（7/27）人権についての外部研修に参加し、全体会議において報告し、勉強会を行っている。	一部の職員が外部研修に参加し、全職員で伝達研修による勉強会を行っており、報告書がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回勤務評価表をもとに自己評価を行い自ら苦手な事やできていない事に気付く機会がある。又、上司はそれを元にアドバイスをを行い法人内外の研修参加を勧めレベルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム8事業所と年1回集まり困難事例の検討や意見交換を行っている。又、母体の病院にて関連事業所が集まり勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や不穏時に限らず日常より会話の中から不安や心配・要望を聞きだし、それに応じられるようようにし、信頼関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と十分な連絡を取り、困っている事や要望を聞き対応している。入居後も毎月のお便りを発行し、生活の様子と健康状態を連絡している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や病院からの情報を参考に、本人のニーズの把握や不安の解消に努めている。入居当初は帰宅願望・一人ぼっちゃや、居室に閉じこもりがちにならない様話を傾聴し同調していくことで信頼関係を築けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の得意なことを職員全員が把握しており、洗濯物たたみや掃除等は積極的にお手伝い頂いている。感謝の言葉を必ず伝え入居者さんから、役に立てたとの喜びの声を頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅へ帰られ身内の方々と過ごされたり、受診時の付添いなど協力して頂いている。敬老会などのホームでの行事がある際には入居者の方と参加され、一緒に食事などをして過ごされるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前行かれていたお宮や馴染みの店などに散歩や買い物へ出かけている。又、入居前の友人の訪問も多数あり、心待ちにされている方もいる。	利用者が馴染みにしていたスーパーや神社等に積極的に外出支援をしている。また、利用者の親類や友人に気軽に訪ねてもらうよう、これまでの関係を継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	脳トレやパズル等を入居者さん同士で一緒にされたり、教えあわれたりしている。又入居者さんが他の入居者さんの車椅子を押され季節や昔話をし、散歩を楽しまれている。毎日皆で洗濯物をたたみながらの会話も弾んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで一度退去された方の再入居や申し込みもあり、入院中もソーシャルワーカーさんと連絡を取り状況を把握する様になっている。以前入居されていた方の家族の来訪などもある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者や家族の希望を聴き介護計画を作成している。月に一回懇談会を開き入居者の希望を聴く機会を設けている。自己表現の困難な方場合は行動観察してアセスメントを行っている。	職員は入居時に生活歴や趣味等の情報を把握している。また月1回の利用者全員との懇談会で、思いや希望を聞いている。意志表示が困難な場合は、本人の好きな事でふれあい、目の動きや表情等から推し測り、その思いを大切に受け止め、その人らしい暮らしができるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人・家族・病院・施設からの情報を得ている。入居後も本人との話や家族との話により以前の情報を得るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りは要点を押さえ、記録と口頭で把握するようにしている。又介護記録に一日の過ごし方や心身に状態・食事・排泄状況等記入している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者のニーズに応じた計画を作成できるよう、本人の意見を良く聴き毎月のケアカンファレンスで話し合いをしている。必要であれば主治医・看護師・家族に相談して介護計画に反映している。	職員は日頃から家族の意向を伺い、担当者や関係者の気付きも含めて、本人本位の介護計画を作成している。介護計画の見直しを初回は1ヶ月、その後は6ヶ月に1回、利用者の状態に変化があればその都度家族や主治医と相談しながら随時行っている。介護計画書に家族等から署名押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や、全体の申し送りノートを通して個別の状況を把握できるようにしている。誰でも状況把握できるように具体的にわかりやすい記録の記入を心掛けている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が病院であり、医療機関との連携をとっている。必要に応じて受診や訪問看護の利用を行っている。入居者の外出や外泊・家族の宿泊にもその都度対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、年に一回地域交流会を開催し地域の方をホームに招待したりして地域との交流をしている。消防署には避難訓練を通して協力して頂いている。近所の方には徘徊時の協力を依頼している。ボランティアの慰問交流もしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が母体の病院にかかっている。必要に応じて眼科・皮膚科・歯科など受診介助している。受診後の報告は随時している。	利用者・家族が希望する医療機関を支援している。現在は事業所の母体病院の希望が多く、かかりつけ医との連携を密にし、情報を共有している。また、家族等と受診時の通院介助の方法や伝達の方法についても話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり入居者の方の健康管理を行っている。看護師不在の時は電話連絡し、必要な時は施設に来てもらったり、母体の病院に連絡し助言をもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は家族と共に医師からの診断結果、治療方針を聴いている。入院中は看護師、ソーシャルワーカーと連絡密にし、退院の調整今後の対応を話し合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合終末期の方針を説明し同意を得ている。できるだけ本人の希望を聴き家族、担当医とも相談しながら本人の望むように出来る限り対応している。急変時マニュアルを作成しスタッフ間で共有し介護にあっている。	重度化や看とり介護の指針書がある。契約時に事業所の指針を説明、同意を得ている。重度化した場合や状況変化に応じて、本人・家族等の意向の再確認を行い、主治医や関係者で話し合っ合意を図り方針を共有し支援できる体制である。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがある。定期的に勉強会を行っている。消防署員からの救急救命の指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと地域の方も参加して頂き避難訓練や消防訓練を行っている。災害発生時に備えて水や非常食の準備をしている。	災害時の対応マニュアル（昼間・夜間想定）を作成している。消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施しており、地域住民の参加がある。非常用備品を事業所直室に準備しており、避難時の持ち出し物品の目録を作成し、賞味期限等のチェックも定期的に行っている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に対する尊敬の念を持って接する様にしている。誘導や介助の時も自尊心を損なわない様な声掛けを行っている。	職員はさり気ない声かけや対応を心がけ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない様配慮している。職員用の洗面所に「人生の先輩への尊敬心・言葉遣いや対応について」と、職員自身で気づきを促す内容を書いた紙を貼っている。会議や勉強会でも職員の意識向上に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月1回懇談会を開き行きたい所、食べたい物などを聞き希望に添うようにしている。談話の中でも職員が誘導的な話し方をするのではなく思いや希望を自己決定できるような会話をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	脳トレプリントや体操、レクリエーションなどに無理強いせず一人一人の体調や状態に応じ自由に参加頂いている。ホールでは好きなテレビ番組を見たり談話を楽しんで過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時におしゃれをされる方など自由にして頂いている。イベント時に化粧や着替えなど手伝うこともある。希望により訪問美容を利用し、カット等されている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者も職員も同じものを一緒に食している。四季を感じて頂けるように旬の食材や行事食を取り入れている。食事の下ごしらえなどできる方には手伝いをお願いしている。	旬の新鮮な食材を、毎日買い出しに行っている。調理の職員を配置しており、利用者の嗜好に合わせて、刺身や季節毎の行事に合わせて祝い膳を献立に取り入れている。職員と利用者は同じテーブルで一緒に同じ食事を楽しんでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は毎週スタッフが交代で制作し栄養士がチェックしており、栄養バランスは取れている。日々の会話の中で食べたい物を聴き献立に反映している。水分量や食事は日々の記録に残されている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けして口腔ケアを実施してもらっており、自立の方は自らされ、個人の状態に合わせて見守りや介助を行っている。義歯は毎晩洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動観察や記録にて時間を見計らって声掛けをしたり、本人の意思による訴えで誘導、見守り介助を行っている。パッドや紙パンツの使用を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンや習慣を把握している。さり気ない声かけで前誘導を行い、殆どの利用者はトイレでの排泄を行っている。オムツやパット類も利用者の状態に合わせて考慮している。夜間帯もトイレでの排泄誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録にて排便の状況を把握している。食事にも野菜を多く取り入れたり、乳製品を入れたりしている。毎日の体操や、晴れの日の散歩など適度な運動をして頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて、午前・午後の入浴支援を行っている。拒否がある場合は無理強いないせず、時間をおいて再度声掛けをしたりと工夫し、気持ちよく入浴して頂くように心掛けている。	1日おきの入浴設定ではあるが、毎日の入浴や入浴時間・好みの湯加減等、利用者の希望に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む利用者には無理強いないせず、時間帯や声かけの職員を代える等、利用者がゆっくりと気持ちよく入浴できるよう取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は脳トレやパズル、ボール遊び、体操。天気が良い日には散歩や外気浴など頭と体を使つての活動を通して安眠につなげている。場合により、家族、医師と相談し眠剤での調整を図る事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬説明書をファイルに綴じて職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れ・誤薬防止の為仕切りのある薬剤箱に入れ、配布時には名前を声に出し本人確認している。飲み込まれるまで見届けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・料理・洗濯物干し等個人の能力に応じた役割分担をし、必要とされる喜びが持てる支援を心掛けている。昔の曲を流し他入居者と一緒に口ずさんだり、趣味や経験に応じた楽しみが持てるように工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に自宅へ外出・外泊などをされたり、外出可能な所へは本人の希望に応じて職員が同行し外出している。	陽気の良い日には、近くのお宮へお参りに行ったり、敷地内を散歩コースにしている。四季折々の花見やさげもん祭り等のドライブ、年2回ファミリーレストランへ外出に出かけている。利用者に出かけたい場所等を聞き、家族の協力を得ながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じお金を管理されている方もおられる。希望の品を代購したり一人一人の能力に応じて使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話されたり、取り次いだりしている。手紙は直接本人に手渡し、希望により代読・代筆している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、入居者と一緒に作った工作・写真を飾り殺風景にならないようにしている。浴室からは庭が眺められる。また、窓にはロールカーテンを使用し眩しくない様、調節している。テレビの音量にも気を配るようにしている。	玄関周りには可愛い草花が植えられ、共用空間は明るく清潔で室温も適切で家庭的な雰囲気がある。季節の花・イベント時の写真・ちぎり絵・利用者の書等が飾られている。利用者同士の関係性等に配慮し、テーブル・椅子・ソファを配置している。利用者が居心地良く落ち着いて過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の配置の工夫。ホールにソファアを置き、自由に座れるようにしている。玄関横にテーブルチェアセットを置き、外気浴やおやつをしたり、一人一人自由に思い思いに過ごせる空間作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真などを置き、一人一人が個性のあるくつろぐことのできる空間作りに努めている。又自宅で使用されていた馴染みの家具や小物を自らの希望に合わせて設置している。	居室の入り口には手作りの表札を掛け、利用者の馴染みの品、家具・家族写真・位牌・TV・配偶者の手彫作品等が持ち込まれている。本人が居心地良く過ごせる様家具の配置を工夫している。居室の窓には、グリーンカーテンで暑さ対策を行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の希望に添って、落ち着きやすいように家具や小物を設置してある。廊下、トイレ、浴室には、手すりを設置してありつまずきや転倒防止の為、足元に小物などおかないようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の合同朝礼と月1回の全体会議、運営推進会議でも理念を復唱し、談話室、各ユニットの入り口、各カウンターに掲示して共有と実現に心がけ、地域交流会や敬老会。家族会において理念を交えて挨拶したり、契約時に理念の説明を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診時の待合室などで近所の人から声をかけてもらったり、苑内で出来た作物を配ったり、町内のゆうゆう会に2名入会されており、毎月1回参加している。町内の文化祭に作品を出展したり、町内の夏祭りや運動会に見学参加し、ビールを贈呈している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会と敬老会で認知症の対応についての介護劇を実演。病院や関連施設や老人会においても劇の披露をしますので、と呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容の報告の他、テーマを決めて話しをし、入居者代表、家族代表、市職員、民生委員などの意見提案をしていただき、議事録に残し、その後、スタッフで話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とはメールでの発送、受理を行っており、いつでも連絡をとれるようにしている。だいたい月始めに更新申請などで市を訪問しており、その際にも伝えるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方不穏にてふいに飛び出そうという入居者が1名いて6月から8月において数回夕方に玄関を施錠した。25年度は8月29日に施設内で身体拘束についての勉強会を実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月29日に施設内で勉強会を実施し、2ヶ月に1回、虐待シートを用いてチェックしている。また、日頃も言葉使いや声掛けの仕方について気付いたら朝礼や会議で話し合いをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に情報提供を行い、施設内で8月29日勉強会を実施。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、各項目に対し、説明し、家に帰っても、もう一度目を通してもらい、不明な点があったらいつでも聞いて下さい。と伝え、理解を得られる様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、2名の介護相談員の訪問を受けている。運営推進会議にも利用者や家族に参加してもらい、意見や要望を聞いている。月1回の入居者全員参加の懇談会や家族会でも意見を聞いている。玄関先に意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議と各ユニット会議の他、主任以上の4名による業務改善会議を全体会議の事前実施し、行事、業務、環境整備、サービスの内容、システム変更や利用者の受け入れやスタッフの対応などあらゆる面でスタッフで話し合い反映している。年2回自己評価してもらい意見を記入してもらっている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回行う自己評価により振り返ってもらい、研修や資格取得の推進によりキャリアUPを図っている。資格手当もあり、主任制度もあり、管理者が、8月25日人材定着セミナー研修に参加し、職場環境や人材育成などの向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、性別、年齢に関係なく雇用しており、病院退職後の嘱託職員もいて差別なく安心して働ける環境を目指している。職員の特技や個性が生かせるよう役割をもってもらい、各自主導権を持ってもらっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ1名が地域の人権同和の研修に参加。施設内において9月26日報告会を実施。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート、正職員に限らず、研修や勉強会の知らせが来たら掲示し、参加を促し、参加者は会議にて報告会を実施している。研修費用も各自年1万円支給される。育成については年2回自己評価をしてもらい経験に応じて資格取得を働きかけている。介護福祉士本年度合格者1名。受験予定者2名。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が仲介となって、同業者のネットワークを作り、本年度は10月23日に実施。困難事例や意見交換などを行い、サービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族、担当者のSWから詳しく話を伺いご本人の思いや希望に耳を傾けて、信頼関係を築くように努めている。ご本人の言葉は記録にも記入し、全職員で把握できるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や思いを聞くためにスタッフとご家族がゆっくりと話が出来る環境を作っている。入居直後は面会の回数を増やして頂き、ご家族の不安や利用者の暮らしぶり等を話し合いながらご家族との関係を深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にL来られた本人や家族と十分に時間をかけて要望を伺う。その際本人のADLや希望しっかりと聞きとり調査し、他機関とも連絡を取りながら対応するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事や生活の知恵等を共に調理や掃除中の談話を通じて教えて頂き、常に感謝と敬愛の心を言葉や仕草で伝える様にしている。ちょっとした会話や雑談の中より様々な生活習慣や昔の苦労話などを聞き共感しあう関係を築くようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、些細な事でもマメに連絡をとり、可能な限り面会や外出の機会等を依頼している。来所の際には小さな変化や本人の希望等も報告や相談を行い、入居者の事を考え、理解して頂けるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型であるためか、入居者や家族が親戚や友人、知人である事も多くある。それぞれの人間関係をきちんと把握し、家族以外でも知り合いや友人関係の方には気軽に面会して頂けるように声掛けしている。入居者が面会したい人や訪れたい場所などは誕生日企画の外出などで希望される場所にも行けるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や好みを把握し、必ず孤立しない様に気を付けている。談話に誘ったり、会話の糸口を提供するようにしている。耳の遠い方でも、笑顔で身振り、手振りでも接してもらうようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が他入居者やスタッフに会いに来られたりされる。大きい行事や慰問がある時などは参加の声掛けをし参加して頂ける事も多くある。長期入院で退去された方でも再度申込み頂く事も多く、SWや本人の、家族との連絡を大切に、より良い関係が続くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月1日に入居者全員と懇談会を行い意見や希望を伺っている。他には一人一人の毎日の言動や行動、表情に目配りし、個人の心情を把握出来る様努めている。気になる方には居室などで個別に談話し希望を聞かせて頂いている。職員同士での意見交換や情報交換も多くしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は本人、家族病院、施設より情報を得る。入居後は主に本人、家族に協力して頂きながら情報を取得し、センター方式を用いて情報をまとめ記入し、スタッフ全員で状況の把握が出来るようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録に、その日のバイタル、食事量、内服、水分摂取量や排泄状況をきちんと記入し一カ月毎の検温表にも記入するようにしている。他に特変や一日の過ごし方、会話なども記入するようにしている。生活日誌には全入居者の一日の日課を記入し常に現状の把握が出来るようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のユニット会議にてケアカンファレンスを行い、常に入居者全員に見合った援助を考え実践している。本人、家族とも出来るだけ多く会話するように心掛け、常に入居者に必要なニーズを掴み取れるようにしている。問題が生じた場合は本人、家族、主治医などに相談した上で再度計画を見直し変更している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	、1週間分の全入居者の個人記録をファイルし、ユニット全スタッフは勤務前に個人記録と申し送りノートに目を通してから勤務する事としている。前1ヶ月の個人記録もすぐに見直せるように個人別にファイルし確認できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや希望を取り入れた外出、外食、誕生会を行い、レクリエーションなどの企画や外出にも力を入れ積極的に取り組んでいる。健康面では母体の病院と連携を結び24時間体制で援助できるようにしている。母体病院の他にも往診や通院援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回、2名の介護相談員の訪問を受けている。運営推進会議も2ヶ月に1回行い必ず地域住民の方にも参加して頂きホームの現状を伝えている。他にも夏祭りや運動会、文化祭にも参加している。年に一度地域交流会を催し、入居者、職員との交流を行うようにしている。介護劇を行っているが大変好評である。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が母体病院がかかりつけ医であり、定期的に職員が付き添い受診している。他にも歯科は年に1回の歯科検診を行い、必要に応じて往診をして頂いている。皮膚科、眼科、精神科などかかりつけ医があり、必要な時は職員が付き添いし受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、入居者の健康管理を行っている。夜間や休日にも連絡して助言や指示をもらえる。必要に応じて母体の病院看護師からも対応してもらえる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族と共に主治医より説明を受け病院に対しては介護サマリーで情報を提供している。入院中には退院後もスムーズに対応できるようにSWや担当看護師と連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に終末期や重度化にむけた方針について説明して同意を得ている。本人や家族の意向を確認しながらより良く暮らせるように支援していきたいと思っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や外出時の事故、台風などの災害の備え等のマニュアルを作成し、いつでも誰でも対応できるようにしている。また研修等にも参加し実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員が立ち合いの元避難訓練を行っている。消火器や火災報知機についても業者による定期点検を依頼している。スプリンクラーも設置済みである。災害時に対応できるように非常食も準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に会議を行い一人ひとりの日常生活等について話し合い自尊心を損なわない様声掛け対応を心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月1日に懇談会を開き希望や要望を聞いて出来る限り希望に添える様に努めている。毎日の生活の中でも本人の意思を尊重している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や状態に応じ好きな事をしてもらえよう本人の希望を取り入れながらその方のペースで自由に過ごして頂けるよう心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時におしゃれをされる方に季節のアドバイスをし季節に合ったおしゃれを楽しんで頂いてい。希望により訪問美容を利用してカットやパーマもされる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員は同じ物を一緒に食している。四季を感じてもらえる様に旬の食材を取り入れ、時には郷土食を習いながら楽しんで作る事もあるし、一緒に外食も楽しんでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はスタッフが交代で1週間分ずつ作成し栄養士がチェックして栄養バランスが取れた食事に心掛けている。月1回の懇談会の中で食べたいものを尋ねて献立に取り入れて食して頂けるようにしている。水分量や食事は毎日の記録に残されている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて口腔ケア実施してもらっている。中には自主的に行う方もいらっしゃるが個人の状態に合わせて見守りや介助を行っている。義歯の方の義歯は毎晩夜勤者が洗浄を行っている。年1回歯科検診を行い治療が必要な方は訪問治療も行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録にて排便の状態を把握し食事でも野菜を多く取り入れ、毎日体操や散歩などで適度な運動を行い、便秘が少なくなるようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録にて排便の状態を把握し食事でも野菜を多く取り入れ、毎日体操や散歩などで適度な運動を行い、便秘が少なくなるようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせる様午前、午後、の入浴を支援し拒否がある時は無理強いせず時間を置き再度声掛けしたりし、工夫や会話などで気持ち良く入浴して頂ける様に心掛けている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は脳トレ、リハビリ、ボール蹴りボール投げ、天気の良い日には、外気浴、散歩などし、頭や体をつかって安眠出来る様つなげている。時には家族や医師に相談し、状態に合わせて、薬剤で調整を図り、安眠できる様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに各自の内服情報を保管し、変更があった場合はマーキングをしたり、スタッフ全員で情報を共有している。内服は管理箱を用意している。服薬時は、名前を声に出し、必ず確認するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理盛り付けや洗濯物干し等の手伝いをお願いしたり、塗り絵や計算問題等をおやつ後に個別にやってみようとしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩やテラスでのお茶会などを行い、本人のストレスが溜まりにくいようにしている。イベントや行事でも外出し、誕生日等はご家族にも協力して頂き出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昔からの習慣で、小銭程度のお金がある方もいる。ご本人が欲しいと希望されたら、スタッフが買うようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望の際は、スタッフがかけ取次ぎを行っている。手紙のやり取りには、本人に書いて頂きスタッフが出しに行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、プランターを置いて季節の花を植えている。廊下には行事などの写真を飾ったり、手作りの飾りを付けたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、入居者全員が座れるソファがあり、TVやDVD、CDを観たり聴いたりしながら、入居者同士の会話を楽しまれている。ウッドデッキや玄関前にも椅子を置いて、いつでも外気浴が出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを家族に持ってきてもらい使用するようになっている。本人の希望を尋ね家具配置をしている。居室の壁には、家族との写真や絵を飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室、トイレ、浴室には手すりを装置している。夜間トイレ誘導の時の為の小ライトを設置。居室内の電灯も2段階に調節できるものを設置している。玄関前には椅子を置きいつでも利用できるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない